

インフル集団感染 27件 514人

県まとめ 特養ホームが最多

兵庫県内36市町(政令中核市を除く)の高齢者・福祉施設で今冬、インフルエンザの集団感染が27件起きたことが県のまとめで分かった。死亡者は、3人が亡くなっていたことが21日に発覚した淡路市の養老老人ホーム「北淡荘」のケースのみだが、感染者総数は計514人になる。県は、今季の流行は過去最悪レベル

ル。例年以上に増える可能性がある」として各施設に注意を呼び掛けている。集計期間は、インフルエンザが流行期に入った昨年11月26日～今年1月20日。施設内で感染者や感染疑いが10人以上か、10人以下の施設で半数以上が発症したケースを対象とした。インフルの集団感染後に死亡したが、死因がインフルに關

係しないものだったケースは含まれていない。27件の内訳は、特別養護老人ホームが最多で10件206人。次いで障害者支援施設が5件53人。地域別で淡路市の養老老人ホーム「北淡荘」のインフルエン

ザ集団感染問題を受け、兵庫県淡路県民局は28日、感染対策について協議する検討委員会を2月中旬にも開く方針を明らかにした。感染抑止のための抗インフル薬の予防投与について、施設側への指導が十分機能しなかつたことを受けて決めた。

効性などを提示する方針。施設側からは現場での対応状況、医師からは医学的な見地などについて報告してもらい、関係者間で認識を共有する。投薬には副作用もあるため入所者一人一人の状態に合わせた対応が必要だが、投薬を軸に、インフル流行時の基本的な行動方針をまとめるといふ。インフルが全国的に猛威を振るい、警戒レベルを上げて流行する中、同事務所の意見室所長は「現場目線で考え、実効性のある対策をまとめたい」としている。

(西井由比子)

淡路県民局が対策検討委 予防投薬軸に方針策定へ

委員会は、感染症の専門家や委員長に、淡路島内の高齢者施設や病院、医師会などの代表者らで構成する予定。淡路県民局本健康福祉事務所が事務局を務める。2018年度中に1、2回開催し、抑止対策を文書にまとめる。同事務所は予防投薬の有

5組女子 看護系志望
神戸新聞 1月29日分